

た刃で桧を彫ると、細かい白い筋がつかますので、鑿は別の物を使います。どちらかというところ、桧の方が気を使いますが、桧にしても櫟にしても、色、木目、硬さ等、一本一本違いますので、材料毎にその木に合う仕事をしています。

道具は生命!!

兵庫県三木市から、業者さんが年に何度か来てくれますので、その時に鑿の刃を購入しています。一般の方が使っている彫刻刀とは違って、刃先部分のみを買って、柄



今、作らせてもらっている地車を大切に彫らせてもらって、更に精進をし泉州地域河内地域の方からご指名をもらえたいです。岸和田をはじめ地車のある地域では新調された地車のお披

将来の夢

は自分で作ります。荒彫り用の鑿には金槌で叩きますから、櫟の木を使います。仕上げ用の柄は桧で作ります。本数も多々いろいろな角度や大きさの鑿があります。鑿の生命は切れ味ですから、砥石も自分の使う鑿の形に合ったものを作ります。切れない事には、作品は出来ませんから、良いものを仕上げるためにも切れ味を大切にしています。

露目を見ようと、朝の6時には人で埋め尽くされ何万人の方に見てもらえ注目されます。看板となる地車を任されるようになりたいですね。

私の中では、もちろん地車の存在は大きいものです。地車彫刻の殆どは、古典を題材にしたもので、すから、それぞれの作品毎に師匠から教えられた「空間の美」を大切に、人物の表情やポージングに拘って、切り取る一場面を臨場感のあるものにしたと思っています。

それと並行して、地車彫刻以外の作品として、現代美術家の天明屋尚氏の依頼があつて、「証の塔」を共同で製作して、「ミヅマアートギャラリー」（東京）で発表されました。自由な発想で斬新なものをつくり、山本陽介の展覧会を開きたいと思っています。

感謝の気持ちを忘れずに...

今まで、応援して下さいている方、支えて下さっている方、一緒に頑張ってくれている弟子もおりますし、チーム彫陽の皆さんがいてくれますから、いつも感謝の気持ちを大切にして彫刻に情熱を持って励んでいきます。

そして山本陽介に頼みたいと言われる事を目標にしています。

